

# 一般質問通告書

受領日時 令和5年11月30日 午前11時10分

5番 氏名 椎名 志保

質問項目	質問の要旨
1.大雨災害から5ヶ月、防災・減災対策、被災者支援の現状は	<p>(1)内水氾濫対策とする雨水管の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・十分な検証が行われ、雨水管の整備という対策に至ったのか。どういった対策であるのか。</li><li>・磯ノ目地区や曙町など、該当する被災地域への対策の説明・住民の意見を聞く対話の機会を設け、お互いに信頼関係を持ちながら、より良い復旧・復興につなげていくべきではないか。</li></ul> <p>(2)馬場目川の西野橋から下流域でも河道内の伐木・洲ざらいを行うよう八郎潟町からも県に対し、強く要望していただくことの働き掛けを行うべきでないか。</p> <p>(3)田町杉ヶ崎地区は農業用水路の氾濫により、これまで4度の床上・床下浸水に見舞われているが、対策は示されていない。県からは、町と協議し対応にあたりと伺っている。町としてどのような方策で県との協議に臨むのか。</p> <p>(4)被災農地に対し、浸水家屋・被災した事業者同様、直接的な助成を行うべきでないか。</p> <p>(5)被災者支援の現状は。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・秋田市は「復興支援チーム」を立ち上げ、支援制度の周知や困りごとを聞き取るなどし、一刻も早い自立や生活再建の後押しをしている。また市の社会福祉協議会に委託し、「地域支え合いセンター」を設置。被災者の生活相談を受け付け、連携して問題解決に取り組んでいる。被災された方々の生活再建への支援は十分行われているか。特に高齢者など自力での生活再建の難しい方の状況把握、ニーズをどう捉え、支援しているか。また今後をどう支えていくのか。</li><li>・9月定例会で、行政や町内会長・民生委員の方々の手の届かないところでの見守り活動を民間のグループが補完し、有事の際にも生かすことはできないかを提言している。6月定例会ではコミュニティナースの提案と組織の経験者が当町に在住している情報提供も行った。今こそ取り組みを実現できないか。</li></ul>
2.五城目町高齢者福祉計画、第9期介護保険事業計画に	<p>(1)介護サービスの利用状況について第1号保険者1人当たりの給付月額において、介護老人福祉施設・介護老人保健施設の利用の伸び、特に短期入所生活介護の伸びが当町の介護給</p>

<p>ついて</p>	<p>付費を増大させている大きな要因の一つである。訪問介護・通所介護に移行させていくことが課題であると思われるが、どう分析し、第9期で進めていくのか。</p> <p>(2)介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のデータから、当町の65歳以上の一般高齢者・在宅の要支援者が健康だと感じている割合が高い一方で、幸福だと感じている割合が県内19市町村・2広域中、下から2番目に低い結果であった。健康だけれど幸福ではない。この結果をどう捉えているか。</p> <p>(3)地域活動への参加意向割合について、健康づくり活動や趣味等のグループ活動へ参加するか問いに「参加者として」が全県トップ、活動の「企画・運営に参加してみたい」が全県第2位の意向の高さであった。介護予防意識の高さの表れであり、実際の介護予防行動へ結び付く十分な可能性があるものと思われる。この結果をどう活用し、第9期での介護予防を行っていくのか。</p> <p>(4)介護予防に努力する高齢者に保険料でその成果を示すことはできないか。町の考えは。</p>
<p>3.今後のクマ対策は</p>	<p>(1)クマの出没が特に多い年であった。人身被害はじめ、児童・生徒の登下校にも危険が及び、町民の日々の生活が危険に晒された。対応にあたった猟友会にも過度な負担ではなかったか。捕獲や駆除に対し、国や県では交付金の対象とする検討や助成の考えを示しているが、今後のクマ対策について町はどう取り組んでいくのか。</p>